

第79回

満月の夜開くけいはんな哲学カフェ

ゲーテの会



「新しい文明」の萌芽を探る

日本と世界の歴史の転換点で、転轍機を動かした「先覚者」の事跡をたどる

政治・経済

明治から江戸の儒学を語る — 井上哲次郎の「古学派」の概念を手掛かりに —

〔講師〕

リネペ アンドレ 帝京大学文学部日本文化学科講師

1975年ドイツのハーゲン市に生まれる。ドイツのフンボルト大学ベルリン哲学学部日本学学科 (Japanologie) 卒業、自由大学ベルリンの文化人類学卒業、フンボルト大学ベルリン博士課程後期 (日本学専攻) 修了、東京大学大学院法学政治学研究科研究生 (文科省奨学生) として渡辺浩教授のゼミナールに参加。帝京大学文学部日本文化学科講師、法政大学大学院国際日本学インスティテュート非常勤講師。近世日本思想史専攻。

〔講演要旨〕

日本の高等学校の教科書では、江戸儒学は朱子学・陽明学・古学という三学派の分類によって説明されています。この分類は明治時代の東京帝国大学教授・井上哲次郎 (1855~1944年) が創造したものでした。また、井上の江戸儒学についての構想において、特に「古学派」と兵学者・儒学者の山鹿素行 (1622~85年) の思想が大きな役割を果たしました。しかし、近年の日本思想史の学史研究では、井上哲次郎自体の哲学と政治思想が数多く研究がされています。なぜなら、井上における江戸儒学の構想は歴史的証拠もなく、実は密接に明治の思想文脈と関わるものであったと明らかになりつつあるからです。本講演ではこの近年の研究業績に基づいて、井上のいう「古学派」と井上における山鹿素行の思想についての理解に注目しながら、その思想的 (イデオロギー的な) インプリケーションを紹介します。そして江戸儒学についてのこれまでと異なる語り方について思考したいと思います。

〔参考図書〕

ご講演の内容の理解を促進するために次の図書が有益です。

藤田正勝 (2018) 『日本哲学史』昭和堂; 小島毅 (2006) 『近代日本の陽明学』講談社; 中村春作 (2002) 『江戸儒教と近代の「知」』ペリカン社; 井上哲次郎 (1902) 『日本古学派之哲学』富山房

日時

2020年2月13日 (木) 18:00~20:30

会場

国際高等研究所コミュニティホール

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地

参加費

2,000円 (交流・懇談会費用を含む)

定員

40名 (申し込みが定員を超えた場合は抽選)

申し込み

ホームページからお申し込み下さい
<https://www.iias.or.jp/communication/goethe>

締切

2020年2月12日 (水)

どなたでも
ご参加いただけます。
ぜひ、お誘いあわせの上
ご参加ください。

けいはんな「ゲーテの会」とは…

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。研究所の庭園にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は国際高等研究所で、人類の未来と幸福、そしてけいはんな学研都市について考えてみませんか。



お問い合わせ

ゲーテの会事務局

Tel: 0774-73-4000 e-mail: goethe0828@iias.or.jp

主催: 公益財団法人国際高等研究所



公益財団法人
国際高等研究所